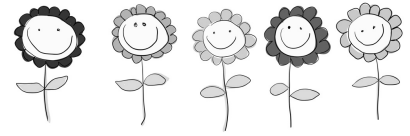


へるす さぽーと



ピロリ菌とは？

ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）は、胃の粘膜に住み着く細菌です。胃がんになった人の95%が、ピロリ菌に感染した人です。ピロリ菌は、自然界にはほとんど存在しない細菌で、主に人の体内に生息しています。口から侵入して、胃の粘膜に住み着きます。

ピロリ菌感染の予防

ピロリ菌は、感染している人からの食べ物、口移しや、上下水道が整備されていなかった時代に不衛生な水を飲んだことなどが、感染の原因と考えられています。ほとんどの感染は5歳までの免疫の働きの弱い時期までに起こり、慢性感染となります。

他にがんを発症する感染症として、肝細胞がん（B型肝炎ウイルス

ス、C型肝炎ウイルス）、子宮頸がん（ヒトパピローマウイルス）があります。胃がんはそれよりかかりやすく、亡くなりやすいがんでもあります。ワクチンもないため、5歳までの感染を防ぐか、検査・除菌が重要です。

ピロリ菌検査

胃がんを予防するには、ピロリ菌に感染しているか検査を受けることが大事です。

内視鏡を使わずに行う検査

- 尿素呼気試験
- 便中抗原検査
- 抗体測定（血液検査、尿検査）

内視鏡で行う検査

- 迅速ウレアーゼ試験
- 鏡検査 培養法

内視鏡検査などで胃炎が確認されている場合のピロリ菌検査には、健康保険が適用されます。より正確に判定するために、複数の検査が行われる場合もあります。（特に抗体検査では正確な結果が得られないことがあります。）

剣淵町では、平成30年度からピ

ロリ菌の便中抗原検査を実施しています。詳しくは、年に数回発行している、がん検診のチラシや回覧をご覧ください。

感染していたら？

ピロリ菌検査で陽性の場合、胃がんを予防するためにピロリ菌の除菌することが重要です。また、除菌治療の前には、内視鏡検査を受けて胃がんがないことを確認する必要があります。ピロリ菌検査が陽性だった場合は、医療機関（消化器内科）を受診し、内視鏡検査を受け、除菌治療を受けましょう。

除菌治療は、2種類の抗菌薬と胃酸の分泌を抑える薬を1日2回、7日間服用します（一次除菌）。除菌がうまくいかなかった場合は、抗菌薬を変更して二次除菌を行います。確実に除菌するためには、決められた期間、薬をきちんと服用してください。

除菌後の注意点！

除菌治療が成功すると、胃の粘膜はきれいになり、胃がんのリスクはある程度低下します。しかし、胃がんのリスクはなくなるわけではありません。除菌後であってもピロリ菌に一度も感染したことが

ない人と比べると、胃がんになる確率は高くなります。そのため、除菌後も定期的な胃がん検診が必要で、町で実施しているがん検診や、内視鏡検査を定期的に受けましょう。

また、胃がんの発症には、生活習慣も関わっています。ピロリ菌に感染していなくても、除菌後であっても、塩分の取りすぎ、喫煙、野菜不足には注意が必要です。

剣淵町のピロリ菌検査

対象者
35歳以上で、ピロリ菌検査・除菌治療を行ったことがない方。
検査方法
便中抗原検査

事前に送付する専用のキットで、自宅で便を採取（大腸がん検診とは別のキットになります）自己負担
600円

お問い合わせ先
34,3955

